女子とスポーツ

Talk Session

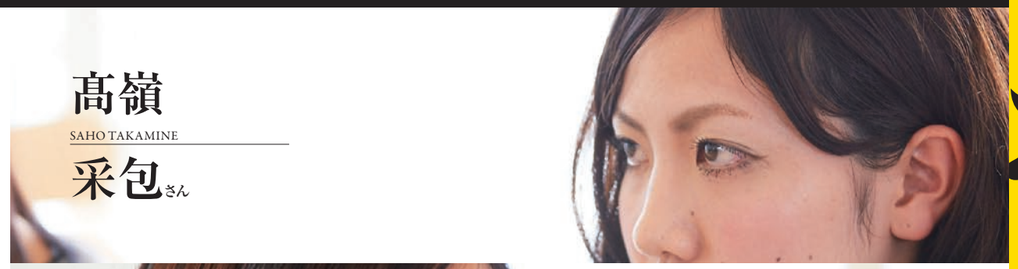
対談企画

Girls + Sports ／ いま、日本が見逃している二つのポテンシャルとは

大畑 大介氏
DAISUKE OHATA

中嶋 昌彌教授
MASAYA NAKAJIMA

山川 淳也監督
JUNYA YAMAKAWA



高嶺 采包さん
SAHO TAKAMINE

西邑 美香さん
MIKA NISHIMURA

松田 結夏さん
YUKA MATSUDA

2012年ロンドン五輪での日本の獲得メダル総数は38個。うち女子が17個と女子の活躍が光った。追大の女子学生も日本代表選手として出場を果たし敢闘。「なでしこジャパン」人気に代表される女子スポーツへの視線はますます熱い。一方、日本社会全体に目を転ずると、先進国中最下位の女性役員登用率に代表されるように女性の社会的地位は低く、依然、男性優位が続いている。混迷と閉塞の現代、硬直化する現状を打破するキーワードは、「女子」と「スポーツ」なのではないか。追手門学院大学では、この春、女子ラグビー部と女子サッカー部が誕生する。本学のスポーツ女子力強化が大いに期待される今、これからの「日本創造」のシナリオをリードすると期待される「女子+スポーツ」の力をさぐる。

女子の元気と笑顔で不均衡と停滞を吹き飛ばせ！

司会　なでしこジャパンやレスリングの吉田沙保里選手をはじめ、女子スポーツ選手が脚光を浴びています。今なぜ女子スポーツなのでしょうか。

大畑　日本社会は、まだまだ男性上位の考えが根深いと思います。スポーツでもビジネスでも、まだ女性の本来の強さが生かしきれていない。まずはスポーツから女性の地位向上が進みはじめているのではないでしょうか。

中嶋　スポーツの世界で女子は男子に比べまだマイナー。その分、まだまだ伸びしろがあります。女子は総じて元気ですよね。今、その元気を社会に生かすべき時なのでしょう。

山川　なでしこの輝きのおかげで、これまで女子スポーツにかかわってきた全ての人が報われました。ワールドカップ優勝、オリンピック銀メダルと成果を上げたことで、認知度の低かった女子サッカーに対する社会の目が変わりました。トップの価値が変われば、裾野の価値も変わる。女子サッカーにとって今がチャンスと言えます。

司会　そんななか、この春、追大に女子ラグビー部と女子サッカー部が誕生します。ラグビー部の方は大畑さんも立役者のおひとりですね。

大畑　次の16年リオ五輪から7人制ラグビーが男女とも正式種目になります。「日本を応援しよう」「日の丸を応援しよう」という機運が高まっている今、女子ラグビーがオリンピック種目に採用された影響は大きい。女子ラグビーはサッカー以上に認知度が低く、競技人口が非常に少ない。ビッグチャンスです。僕はラグビーを通じてスポーツの素晴らしさを伝え、女性の地位向上にもつなげていきたい。追大女子ラグビー部をそのきっかけにしたいのです。まだまだやれることがあると思っています。

人それぞれに輝けるスポーツの可能性。

司会　スポーツの魅力とは？

大畑　自己鍛錬ができ、目標が明確であることに加え、社会と自分のコミットメントの場となることです。小さい頃、僕は人と仲良くするのが苦手でした。小学3年生の時、それをなんとかしたくて、たまたま最も身近だったラグビーを始めたんです。ですが、ほんとに内気な性格だったので、みんなの輪の中にも入っていけなかった。

中嶋　そういえば大畑さんは昔「あかんたれ」だったと聞いたことがあります。

大畑　そうなんです。それで輪に入れないまま練習が始まってしまった。ところがヨーイドンで走り出した瞬間、僕は誰よりも足が速かったんですね。するとその一瞬でみんなが僕を認めてくれるようになった。ラグビーが僕に「自信」という大きな

女性本来の強さ生かすとき。

地位向上、まずはスポーツから（大畑）

2013年4月、追手門学院大学に女子サッカー部が誕生。山口みきさん（写真下の左／経営学部マーケティング学科）は茨木西高校出身でポジションはミッドフィルダー。「自分たちのサッカー部をつくりたい」と、新創設となる本学女子サッカー部を選んだという。目標は全国優勝。同じ茨木西高から入学した弓樹はるかさん（写真下の右／心理学部心理学科）はディフェンダー。幼い頃からサッカーを始め、男子の中で懸命にプレイしてきた。「イチからつくる部活にやりがいを感じる。将来の夢は理学療法士」と文武両道をめざす。「やるときはやる、楽しむときは楽しむ。切り替えのできるチームに育てたい」というフォワードの大黒遥加さん（写真下の中央／経営学部マーケティング学科）は星翔高校出身。追大女子サッカー部を率いて輝いてほしい。

▲競技種目や年齢、性別がちがっても、スポーツにかける情熱と愛情は同じ。対談前後にはうちとけた雑談が飛び交った。

プレー＝遊び。好きだからやる。夢中になる。それがスポーツの大原則（中嶋）

武器を与えてくれたんです。

山川　スポーツは人に輝きを与えてくれます。メダルや記録の栄光もあれば、互いに助け合いながら人との関係性を構築していく「関わりづくり」も、スポーツ、とくに学生スポーツの魅力です。私が監督をつとめる男子サッカー部では、部のルールを学生が自分達で作りました。学生主体で自然に組織がまとまっていく小さな社会と言えるでしょう。

中嶋　たとえば高校野球で3年間ベンチの選手など、試合に出られない選手はたくさんいます。でもレギュラーになれないからといって彼らはクラブを辞めないし、またマネージャーというサポート役をかって出る人もいる。つまり、自分が試合に出て勝つことだけでないやりがい、魅力がスポーツにはあるということです。いろんな輝き方があると言ってもいい。それがチームで共有されているからこそ、勝った選手は口をそろえて「みんなのおかげ」と言うんですね。

西邑　私はチアリーディング部で主将をつとめています。「応援するスポーツ」という特殊な存在であるチアは、競いあいながらも他のチームを応援できる点が大きな魅力。またチアという熱中できるものがあるからこそ、他のこともやり遂げられるのだと思います。

高嶺　中・高・大と3つの種目のスポーツを続けてきた経験から、本気になれる、ことん打ち込めるところにスポーツの魅力を感じています。また、大学でやってきた少林寺拳法は、戦う競技であると同時に魅せる競技。組む相手と意思疎通しながら取り組むおもしろさがあります。みんなとの関わりを通じて共に学び悩み考え、一緒に成長していける魅力もあります。

松田　私は6歳から少林寺拳法を続けています。高校時代に全国優勝をかけて戦ったライバルがいて、今はその子との再戦、勝ち越しが目標です。明確な目標に向かってがんばり、結果もまた明確に得られる手応えがスポーツにはあります。

スポーツプレイヤーは世界をめざす。

司会　今「グローバル化」という時、多くは経済視点で語られているようです。「スポーツ視点から見たグローバル化」についてお聞かせください。

大畑　今みんなも言っていましたが、スポーツの実力は目に見えてわかる。結果にハッキリあらわれるスポーツの実力は、国境をこえて通用します。

中嶋　スポーツの価値観は世界共通なんですね。たとえば陸上競技の短・長距離走や競泳などは結果が数字で出るわけです。

規律、自己管理、組織全体の危機管理は、いずれも社会人としての常識。（山川）

ごまかしはきかない。球技にしても、きちんとしたルールがあって、公平性と透明性がある。だからこそ、世界中の人間が対等に競い合える。グローバルモデルの先駆けと言えそうですね。

司会　大畑さんもやはり世界一を目指して努力してきたのですか。

大畑　そうですね、常に目標を立てながらという感じですね。ただ、最初から世界を目指していたわけではありません。やっていくうちにだんだん目標が高くなっていきました。世界に行けばもっと強くなれるだとか、ヒーローみたいだとか思いながら。やはり足元をしっかりと見つめながら経験を積むことが何よりの財産、大切なことだと思います。しかしサッカーも野球も、海外で活躍している選手を見ると、総じて昔より目標設定値が高くなっている印象はあります。

司会　オリンピックなど文化・学問の観点からスポーツを見るとどうですか。

中嶋　スポーツの象徴であるオリンピックは、世界的な文化でもある。また「クールジャパン」のカテゴリーで見れば、スポーツマンガという文化も見えてくる。プレーする、応援する、また障害者スポーツとボランティア、スポーツ経済学など、大学と地域の連携にはまだまだこれから広がる可能性をもっているでしょう。現に日本のスポーツ文化においては学校と企業が日本のアマチュアスポーツを牽引してきたわけですから。

スポーツで獲得する「独立自彊・社会有為」。

司会　教育とスポーツについてうかがいます。大畑さんの大学時代はどうでしたか。

大畑　現役選手だった京都産業大学時代はとてもハードな練習をしてきました。関西屈指の強豪・同志社大学を目標に厳しい練習の毎日。あれほど充実した学生生活を送れたのも、やはり必死になれるものがあったからなのでしょうね。そうした大学生活での取り組みが評価されたのか、就職活動時期には企業からのお誘いも多くいただきました。

司会　体育会系は就職に強いとよく聞きます。快活で礼儀正しく協調性がある点などが支持されるのでしょうね。大学スポーツは就職にも有利と言えそうです。

中嶋　今の大畑さんのお話はあくまで結果としての話。就職や金儲けなどを目的に手段としてスポーツをするというのは、それはちょっとちがう。「プレー」は「遊び」。好きだからやる。そして夢中になる。これがスポーツの大原則です。スポーツの原点でもあり、魅力でもある。

司会　夢中になる中で、結果として人間的にも成長し、社会人基礎力が自然に身に

追手門学院大学 地域文化創造機構 客員特別教授
DAISUKE OHATA
大畑 大介 氏

元ブロラグビー選手。1975年大阪府生まれ。小学校3年生でラグビーを始め、東海大仰星高校時代に高校生日本代表としてニュージーランドに遠征。京都産業大学在学中の96年に初の日本代表入り。神戸製鋼、オーストラリアへのラグビー留学、フランス1部リーグを経て、2003年度に神戸製鋼とプロ契約。1999、2003年ワールドカップ代表。日本代表キャップ58は歴代5位、テストマッチ（国際試合）通算69トライの世界記録を持つ。2011年引退。現在、各種メディアで活躍中。「スポーツで日本を元気に」とラグビーの啓発活動を行っている。

スポーツの価値観は世界共通。

社会学部 教授
MASAYA NAKAJIMA
中嶋 昌彌 教授

専門は都市社会学、村落社会学、大衆文化論。名古屋市立保育短期大学、大阪女子大学を経て追手門学院大学に着任。日本スポーツ社会学会所属。著書・論文に「スポーツと現代社会」（満田久義編「現代社会学への誘い」所収）2003年、「学びの人間学」共著・1998年ほか多数。モットーは「よく遊び、よく学ぶ」。

スポーツマンなら文武両道!

サッカー部 監督
（学生課 職員）
JUNYA YAMAKAWA
山川 淳也 監督

本学体育会サッカー部監督。現役時代はプロサッカーリーグのJFLリーグ（2部）などで活躍。現役引退後は指導者として社会人や学生のさまざまなチームを指導してきた。追手門学院大学サッカー部には、2009年コーチ就任、翌2010年監督に就任。追大サッカー部は去年2部に上がって現在6位。45人の部員と1部昇格をめざしている。

6歳から少林寺拳法ひとすじ。現在三段。

国際教養学部 英語コミュニケーション学科
2年生（取材時1年生）
YUKA MATSUDA
松田 結夏 さん

名門少林寺拳法道場に6歳で入門。入門のきっかけは、自宅から徒歩30秒の近さと、友達が多く通っていたこと。入門後は稽古に打ち込み、小中は道場、高校は部活で競技を続け、追大へ。同じ三段者の髙嶺さんとペアを組み、大阪優勝、全国準優勝と活躍。「部員募集中！ 初心者歓迎。学年不問です」と部の発展を願う。

中・高・大とずっと運動部。

社会学部 社会学科
2013年3月卒業（取材時4年生）
SAHO TAKAMINE
髙嶺 采包 さん

少林寺拳法部。中学はソフトボール部、高校はバドミントン部。大学で初心者から始めた少林寺拳法は、4年生で三段を取得という異例の急成長を見せ、昨年の大阪府民大会三段以上女子組演武で優勝、全国大会二人掛女子準優勝を果たした。「代々先輩が卒業後も指導や支援を続けてくださる伝統があり心強い」と部の文化を語る。

チア部員募集中！学年・経験・性別不問です。

社会学部 社会学科
4年生（取材時3年生）
MIKA NISHIMURA
西邑 美香 さん

チアリーディング部主将。高1でチアに出会い、強豪の箕面自由学園高校で全国3連覇を果たし、母校を9連覇に導いた。追大では新たに着任したコーチと共にチームの底上げに尽力し、一昨年には全国9位に。「チアの技術は日々進化する。世界の最新事情に通じたすぐれたコーチの指導が不可欠」と指導力の大切さを力説する。

▲本学チアリーディング部は、昨年8月のジャパンカップで準決勝に進出し、12月の全日本学生チアリーディング選手権大会で全国12位に。3年前から本格的に競技チームとなって以来、着々と成果を上げている。

つくということですね。山川監督は学生指導をどう考えていますか。

山川　「今なにをすべきか」を学生自身が考える指導を心がけています。学生の本分は勉強。サッカー部は、単位取得が充分でない学生は公式戦に出しません。これは我々が押しつけているのではなく、学生が自分達で考えたルールです。規律、自己管理、組織全体の危機管理は、いずれも社会人としての常識。サッカー部では「独立自彊・社会有為」を念頭に、単位取得や就職活動のバックアップをしています。

西邑　チアも、単位が取れていないと、大会メンバーを決める選考も受けさせません。留年はさせられないので。

山川　もちろん、あやうい学生へのフォローはみんなで真剣に取り組みますよ。また、就職活動期に忙しくなることを見越して、男子サッカー部では3年生までに100単位以上を取得しないとペナルティーがあったりします。

学生一同　100単位！　大変ですね。

自分を磨く喜びが人を育てる。「知徳体」時代到来。

司会　学生のみなさん、大学スポーツで得られたものはなんですか？

西邑　チアは私の大学生活そのもの。チアがあるから毎日が充実しているのだと思います。

高嶺　本気で打ち込む部活を通じて、仲間と一緒に何かを残せる4年間にしたくて、少林寺拳法部に入りました。部活内で意見がぶつかることもありますが、自分たちで解決しないといけません。そうなると、先輩が後輩を指導し、みんなで話し合って、お互いが納得できる形にしていかないといけない。自分たちがどう行動に移していくべきなのか。部活動を通じて学んだところが大きいです。

松田　競技以外で、礼節、上下関係で身につくこともたくさんあります。

司会　文武両道は大切なテーマです。大畑さんはラグビーと勉学をどう両立しましたか。

大畑　僕自身は勉強との両立はできていませんでした。正直、追試も受けました。何かを犠牲にしなければ何かを得ることはできないと考えていましたから。ただ、学生である以上、やる時はやらなければいけない、必要な時は必死に勉強しました。もちろんスポーツも勉強もできるのが一番いい。学んで無駄になることは何ひとつない。自分の選択肢も広がりますしね。今思うともうちょっと勉強しておけばよかった。とくに語学はね。

本気で打ち込む部活を通じて、仲間と一緒に何かを残せる4年間にしたかった（高嶺）

中嶋　部の活動費捻出のために部員たちがアルバイトをしているという話をきいたことがあります。あれは感心しましたね。普通、稼いだ分は自分に使うじゃないですか。学生が自律的にやっていく活動、組織なので、自分たちをどう運営するか、協調性、リーダーシップ、意思統一といった自己マネジメントが必然的に身につく面もあるでしょう。

大畑　上級生がチームをみていくなかで、毎年代替わりしながらも受け継がれる「チームの文化」がしっかり根付いているんですね。

山川　サッカー部は、ボランティア活動などを通じて、社会とのつながりを持っています。大人と接することで社会勉強になり、活躍フィールドを知る機会になります。競技だけでなく、部活動全体の行動によって、人間的成長、キャリア形成を図っています。ただ、受け身の学生も多いので、もう少し自分で考え、困難を切り抜ける能力、相手のことを考えていち早く行動できる力を身につけていってもらいたいところです。

スポーツ強化を通じてオンリーワンの追手門学院に。

司会　学生のみなさんから、よりよい部活動環境に向けて、大学への要望は。

西邑　チアの技術は日進月歩。レベルアップのためには、世界の最新事情に通じた指導者の存在が欠かせません。日本一をめざしたい。そのためにも、すぐれたコーチの指導が受けられる環境をぜひ整えていただきたいです。「追手門のスポーツはすごい」と誰もが認める実績を残せるよう支援していただきたいです。

高嶺　武道は、残念ながら男女問わず「むさ苦しい」と偏見をもたれがち。スポーツ理解を深め、関心を高める機会があってもいいのかなと思います。

松田　道具などにももう少し金銭的なサポートがあるとうれしいです。

司会　学生の声が今後の活動支援につながり、大学全体が一体となって応援していく流れが期待されます。指導陣のみなさん、最後にこれを読んでいる学生のみなさんにメッセージをお願いします。

熱くなれる自分がいるのは幸せなこと。熱くなれる何かを見つけてほしい（大畑）

山川　ものごとをきちんと考え、きちんと知り、悔いのないように行動に移す。大学生活4年の間に一生懸命になれるものを見つけ、なにごとにも果敢にチャレンジを続けてください。

▲少林寺拳法部は、毎年、全国大会に出場して優勝もしくは入賞するなど、本学のクラブ団体において全国レベルで戦っている数少ない団体。過去には世界大会に出場した実績もあり、今後とも活躍が大いに期待される。

中嶋　スポーツ強化を通じて「追手門学院の特色」を出すことが大切だと考えています。幼稚園から大学まで擁する追手門学院なのですから、学校としてスポーツに取り組む明確な方針を打ち出し、学院全体として取り組みと広報を進めていくべきでしょう。

大畑　学生時代の時間は一瞬一瞬が勝負です。大学生活の4年間をどう生かすかは自分次第。毎日を精一杯がんばることが、後から大きな自信につながります。熱くなれる自分がいるのは幸せなこと。何か熱くなれることを見つけてほしいし、女子ならぜひ女子ラグビー部に来て、それを見つけてほしい。小さな成功体験の積み重ねがやがて大きな自信に育つんです。卒業するとき、自立した自分をしっかり持てているよう、小さな成功体験から一緒に喜びあっていきたい。オリンピック金メダルも夢じゃない。世界一の人間になれるチャンスをつかんでほしい。

――後文――

「ALL FOR ONE, ONE FOR ALL」。ラグビーの精神をあらわすこの言葉は、スポーツが示す枠組みの可能性を言い当てているように思う。「ラグビーは前に進むために後ろにパスを出す。自分が体を傷めてでも隣の仲間によりよいスペースを確保するのがラグビーの精神」。大畑さんの言葉に、本学院の理念である「独立自彊・社会有為」が重なった。これからの日本と世界の可能性。チームが自己組織化されるなかで、個人が力を出し切り、それによって個も集団も成長していく。そうしたやわらかな、つながり社会への転換には、女子の力が重要な役割を果たすにちがいない。（取材・記事／国際教養学部　3年生　難波亮祐）

［司会］心理学部　心理学科
4年生　絹輪芽以

※本原稿は2013年1月17日に対談した内容に基づいています。

▸司会PROFILE

心理学部 心理学科
4年生（取材時3年生）
MEI KINUWA
絹輪　芽以　さん

本学学生企画広報スタッフ取材編集キャップ。学生意識委員会副委員長議長。1年生の時から大学ブランド広告制作に関わり、OTEMON PRESS時代には仙台まで取材に行くなど幅広く活躍。また京都教育懇話会学生部会（広報担当部長）にも所属し、学外でも活動中。

司会者のヒトコト

「スポーツが楽しい」という思いから広がる情熱、そこから得られるもの

ただ単にスポーツを楽しむだけではなく、スポーツを通じて得られる知識・体力・意識などを明確化した集大成がこの対談なのだと思います。男女関係なく4年と短い学生生活の一瞬一瞬を楽しみ考え行動することの一つとして、「大学スポーツ」がある。一見真反対であるように見える大学（勉学）とスポーツが合わさってこそ身につけられるものの幅の広さに驚きました。今後追大の大学スポーツの果たす役割がどう変わっていくのか。その可能性に注目です。

News　ビッグニュース

元日本代表・後藤翔太さんが女子ラグビー部コーチに就任

ラグビー元日本代表・後藤翔太さんが、4月に創設される本学女子ラグビー部ヘッドコーチに就任した。早稲田大学から神戸製鋼へ進み、主将を務めるなどしてチームをリード。日本代表としても活躍した。2011年現役引退。大畑大介さんと共に、部の指導にあたる。「既存のチームではなく、新しいものをつくっていける喜びがある。五輪選手を育てていきたい」と意気込みを語っている。

Welcome　女子はチェック!!　Club & Circle

新入部員募集

女子サッカー部　Soccer

なでしこジャパンも夢じゃない!?

時代は女子サッカー。本学にも満を持して女子サッカー部が誕生します。新しくできる部だけに、自分たちでつくりあげていける魅力がある。全国優勝、そして日本代表をめざそう。

対　象　女子・1年生
申し込み・問い合せ　学生課（1号館1階）TEL. 072-641-9627

女子ラグビー部　Rugby

元日本代表の熱い指導で世界をねらえ!

オリンピック正式種目に採用が決まり、今後注目を集めるのは必至。まだマイナーだからこそチャンス。元日本代表選手のコーチのもと、日本女子ラグビーの先駆けになりたい人、集まれ!

対　象　女子・1年～4年生
申し込み・問い合せ　学生課（1号館1階）TEL. 072-641-9627